

## 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、「GS日本株式インデックス・プラス」は、このたび、第36期の決算を行いました。本ファンドは、日本株式市場に広く分散投資を行い、TOPIX(東証株価指数)(配当込み)との連動性を維持しながら、ベンチマークを上回る収益を安定的に獲得することをめざして運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第36期末(2023年9月20日)		第36期	
基準価額	11,921円	騰落率	31.73%
純資産総額	6,193百万円	分配金合計	1,400円

(注)騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

本ファンドは、約款において運用報告書(全体版)を電子交付できる旨が定められております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

### <閲覧方法>

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「ファンド一覧」より本ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択



## 交付運用報告書

# GS 日本株式 インデックス・プラス

追加型投信／国内／株式

第36期(決算日2023年9月20日)

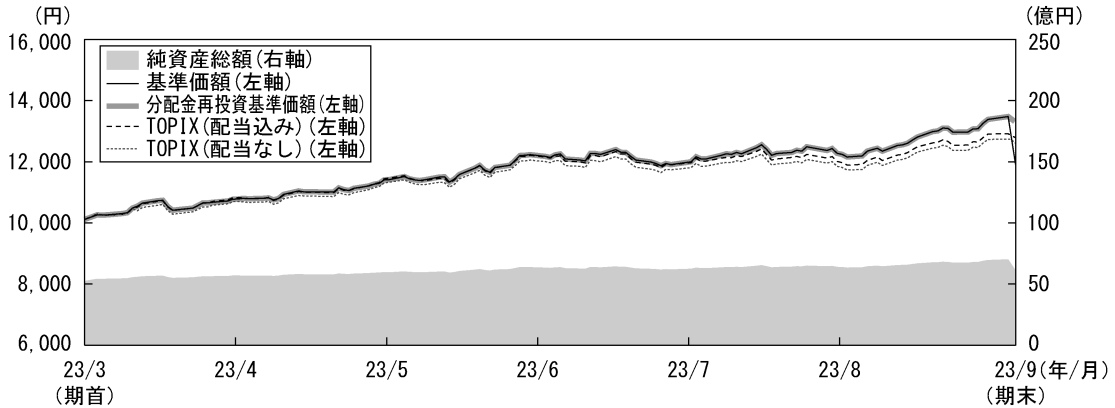
作成対象期間: 2023年3月21日～2023年9月20日

## ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー  
お問合せ先: 03-6437-6000(代表)  
受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)

## 運用経過

### ■ 基準価額等の推移について（2023年3月21日～2023年9月20日）



第36期首：10,112円

第36期末：11,921円

（当期中にお支払いした分配金：1,400円）

騰落率：+31.73%（分配金再投資ベース）

- (注1) ベンチマークはTOPIX（東証株価指数）（配当込み）、2023年6月30日までは配当を含まないTOPIX（東証株価指数）です。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注4) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

### ■ 基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の10,112円から1,809円上昇し、期末には11,921円となりました。

#### 上昇要因

投資テーマのうち、トレンドや投資家心理などによる株価の勢いを評価する「モメンタム」と、割安度を評価する「バリュエ」、収益性を評価する「収益性」がすべてプラス寄与になったこと、当期の日本株式市場が大幅上昇したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

#### 下落要因

当期中に分配金をお支払いしたことなどが、基準価額の下落要因となりました。

## ■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2023年3月21日～2023年9月20日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	65円 (29)	0.553% (0.249)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(32)	(0.276)	
(受託会社)	(3)	(0.028)	
売買委託手数料 (株式)	4 (4)	0.032 (0.031)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
その他費用 (監査費用)	1 (0)	0.010 (0.001)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 目論見書・運用報告書等の作成・印刷に係る費用、信託事務処理等に要するその他の諸費用
(その他)	(1)	(0.008)	
合計	70	0.595	

期中の平均基準価額は11,718円です。

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む。)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含まず。

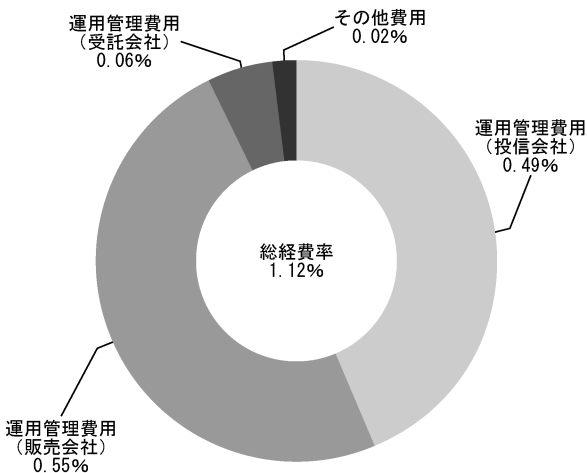
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

### (参考情報)

#### ■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.12%です。



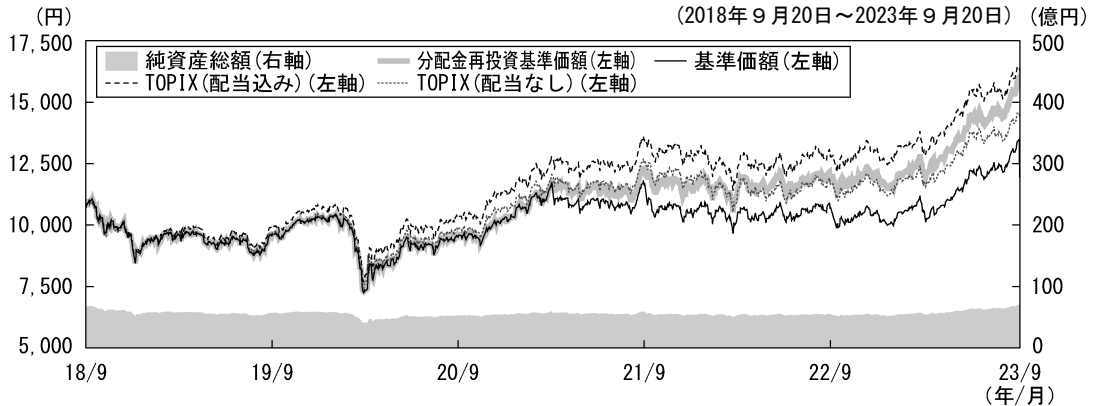
(注1) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注3) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2018年9月20日の基準価額を起点として指数化しています。

## 最近5年間の年間騰落率

	2018/9/20 決算日	2019/9/20 決算日	2020/9/23 決算日	2021/9/21 決算日	2022/9/20 決算日	2023/9/20 決算日
基準価額（分配落）（円）	10,712	9,608	9,573	10,919	10,381	11,921
期間分配金合計（税引前）（円）	—	10	10	1,010	500	1,690
分配金再投資基準価額騰落率	—	-10.21%	-0.24%	24.75%	-0.32%	32.00%
TOPIX（配当込み）騰落率	—	-7.41%	4.35%	28.27%	-3.40%	26.94%
TOPIX（配当なし）騰落率	—	-9.59%	1.73%	25.56%	-5.68%	23.56%
純資産総額（百万円）	6,529	5,676	5,255	5,441	5,269	6,193

## ■ 投資環境について

当期の日本株式市場は大幅に上昇しました。

4月に新たな日本銀行総裁に植田和男氏が就任し、YCC（イールドカーブコントロール）の早期修正期待が後退したことから、日本株式市場は上昇しました。4月末の日本銀行金融政策決定会合において金融緩和継続が伝わり、5月になると堅調な業績見通しや株主還元策を発表した企業などが注目されるとともに、海外投資家の買いが市場を支え、日本株式市場は上昇しました。また、米国半導体大手企業の好決算を手掛かりに、日本株式市場でも半導体関連銘柄に買いが集中しました。6月になると、米雇用統計の強弱入り交じる結果を背景に利上げを見送る観測が出たことや、米債務上限問題の決着などが支えとなり米国株式市場が上昇したことなどから、日本株式市場は上昇しました。加えて、FOMC（米連邦公開市場委員会）での利上げ見送りが好材料となり日本株式市場は続伸しました。一方で、7月中旬になると、日本銀行のYCC修正観測などが日本株式市場の重石となり、下旬の日本銀行金融政策決定会合ではYCC運用の修正が決まり一時市場は調整しました。しかしながら、緩和的なスタンスに大きな変更がなかったことなどから、日本株式市場はその後持ち直しました。8月上旬では、米国債の格下げの影響、中国不動産大手の信用不安などが意識され、日本株式市場は下落しました。一方で、8月下旬にはジャクソンホール会議が大きなサプライズなしに通過したこと、中国経済指標の改善などが支えとなり、日本株式市場は上昇し、前期末比で大幅に上昇しました。

## ■ ポートフォリオについて

### <本ファンド>

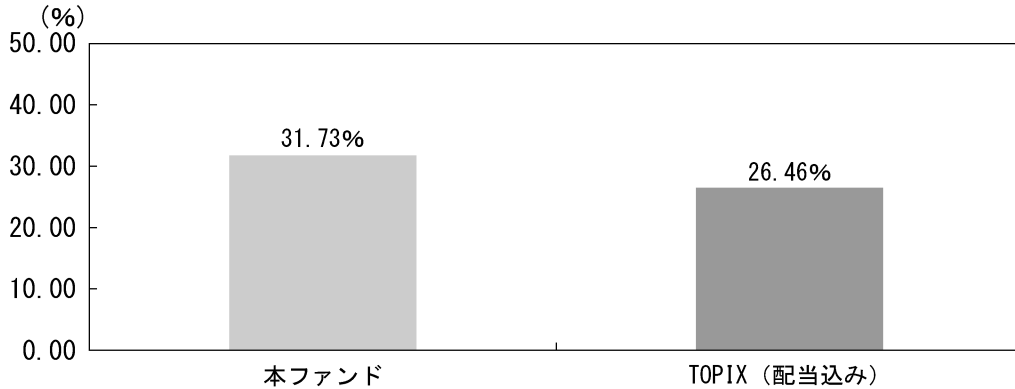
日本株計量運用ポートフォリオ・マザーファンドを通じて、日本株式市場に広く分散投資を行い、TOPIX（配当込み）との連動性を維持しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。

### <本マザーファンド>

本マザーファンドでは、ベンチマークであるTOPIX（配当込み）との連動性を維持しながら、ベンチマークを上回る収益を安定的に獲得することをめざしました。また、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント独自開発の計量モデルを用い、多様な銘柄評価基準に基づいて銘柄選択を行うことにより、安定した付加価値の獲得を追求しました。

## ■ ベンチマークとの差異について

&lt; 当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率） &gt;



(注) 基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は+31.73%となり、ベンチマーク（+26.46%）を上回りました。

当運用では、最新のビッグデータや伝統的な市場・業績データ等をもとに、モメンタム（Momentum）・バリュウ（Value）・収益性（Profitability）の投資テーマを通じた数百もの評価基準（MVPモデル）に基づき、投資対象候補銘柄すべての投資魅力度を総合的に評価した上で、ポートフォリオの最適化を図っていますが、当期は、投資テーマのうち、「収益性」、「モメンタム」および「バリュウ」がすべてプラス寄与となり、全体ではベンチマークを上回りました。

## ■ 分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、当期は1,400円としました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

### <分配原資の内訳>

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	第36期
	2023年3月21日～2023年9月20日
当期分配金	1,400
（対基準価額比率）	10.510
当期の収益	1,400
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	4,387

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針について

### <本ファンド>

今後も引き続き本マザーファンド受益証券を高位に組入れ、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

### <本マザーファンド>

従来通りの運用を継続します。また、個別銘柄のリターン予測モデル、ポートフォリオのリスク管理モデルなどの計量モデルに関する研究・開発は継続的に実施しており、将来のモデル改良への布石としています。

## お知らせ

### 約款変更について

- ・投資対象資産から配当を受け取っており、ベンチマークをTOPIX（配当なし）から「TOPIX（東証株価指数）（配当込み）」へ変更することが運用の実態により即していると考え、本変更を行いました。
- ・弊社を委託者とする他の投資信託の表記に合わせるため、信託の種類表記を一部変更しました。

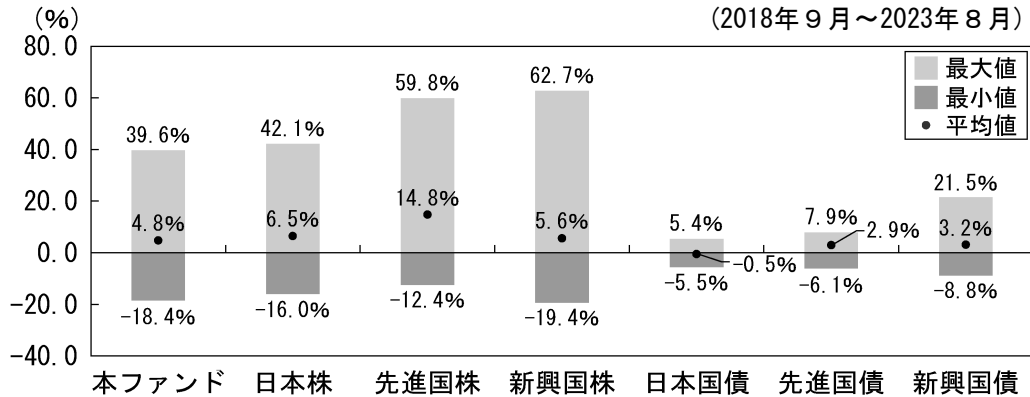
## 本ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	原則として無期限
運用方針	国内の株式を主要投資対象とし、信託財産の長期的な成長を図ることを目標とします。独自開発の計量モデルを用いて、多様な評価基準に基づいて銘柄選択を行うことにより、グロース相場、バリュー相場といったさまざまな市場局面においても安定した付加価値を獲得することと、TOPIX(東証株価指数)(配当込み)を運用上のベンチマークとして、ベンチマークの動きからの乖離を抑制しつつ、ベンチマークを上回る収益を安定的に獲得することを目的とします。
主要投資対象	
本ファンド	日本株計量運用ポートフォリオ・マザーファンドの受益証券
日本株計量運用ポートフォリオ・マザーファンド	日本の上場株式
運用方法・組入制限	①主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入比率は高位に保ちます。 ②マザーファンドにおける株式の組入れ比率は原則としてフル・インベストメントとします。
分配方針	原則として毎計算期末(毎年3月20日および9月20日。休業日の場合は翌営業日。)に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子・配当等収益および売買損益(評価損益を含みます。)等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。



## (参考情報)

## ■ 本ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2018年9月から2023年8月の5年間における1年騰落率の平均値・最大値・最小値を、本ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

○各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

□東証株価指数（TOPIX）の指数値および東証株価指数（TOPIX）に係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社の知的財産です。□MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIインクに帰属します。MSCIおよびMSCIの情報の編集、計算、および作成に関するその他すべての者（以下総称して「MSCI当事者」といいます）は、MSCIの情報について一切の保証（独創性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性を含みますが、これらに限定されません）を明示的に排除します。MSCI、その関連会社およびMSCI当事者は、いかなる場合においても、直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害、懲罰損害、派生的損害（逸失利益を含みます）およびその他一切の損害についても責任を負いません。MSCIの書面による明示的な同意がない限り、MSCIの情報を配布または流布してはならないものとします。□NOMURA-BPI国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。□FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。□JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバルに関する著作権は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

- ・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。
- ・全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。
- ・本ファンドの騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- ・騰落率は当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

## 本ファンドのデータ

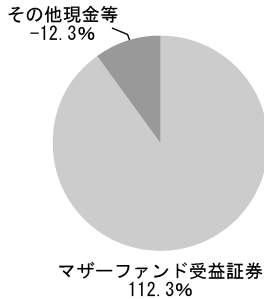
■ 本ファンドの組入資産の内容 (2023年9月20日現在)

○ 組入れファンド

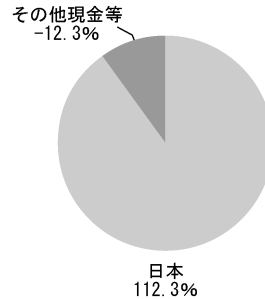
(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	比率
日本株計量運用ポートフォリオ・マザーファンド	112.3%

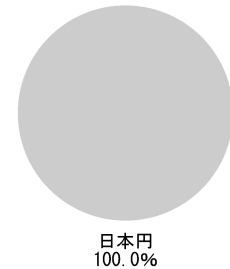
○ 資産別配分



○ 国別配分



○ 通貨別配分



(注) 上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■ 純資産等

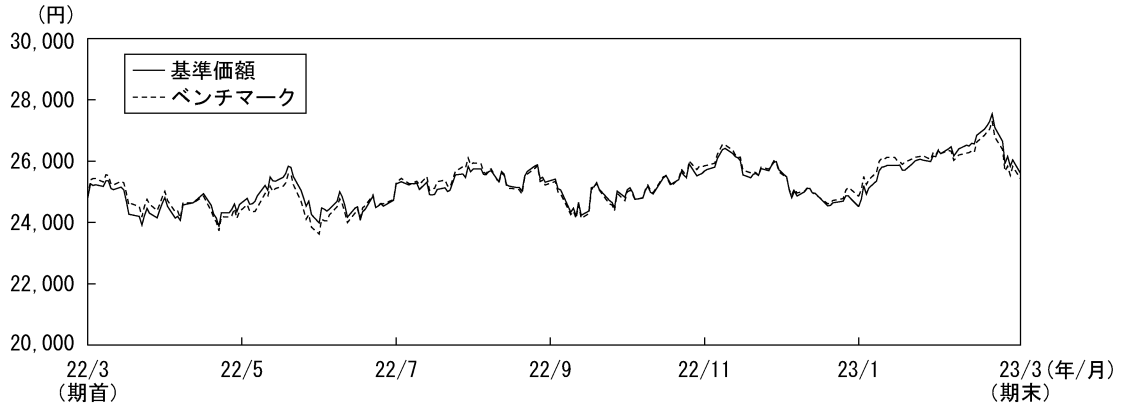
項目	第36期末
	2023年9月20日
純資産総額	6,193,352,641円
受益権総口数	5,195,170,473口
1万口当たり基準価額	11,921円

(注) 期首元本額は5,183,116,282円、当作成期間中において、追加設定元本額は458,088,093円、同解約元本額は446,033,902円です。

## ■ 組入上位ファンドの概要

日本株計量運用ポートフォリオ・マザーファンド（2023年3月20日現在）

○ 基準価額等の推移について（2022年3月23日～2023年3月20日）



(注1) 基準価額等の推移については組入れファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) ベンチマークはTOPIX（配当込み）です。

(注3) ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

## ○ 1万口当たりの費用明細

項目	
売買委託手数料	16円
（株式）	(15)
（先物・オプション）	(0)
その他費用	0
（その他）	(0)
合計	16

(注1) 1万口当たりの費用明細は組入れファンドの直近の計算期間のものであります。

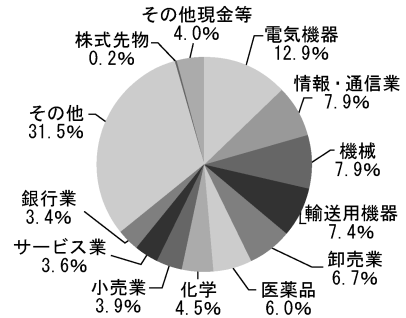
(注2) 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

○組入上位10銘柄

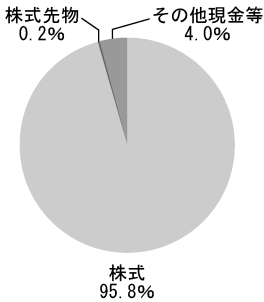
(組入銘柄数：202銘柄)

	銘柄	業種	市場	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	プライム市場	2.9%
2	三菱商事	卸売業	プライム市場	2.2%
3	日本電信電話	情報・通信業	プライム市場	2.2%
4	本田技研工業	輸送用機器	プライム市場	2.1%
5	ソニーグループ	電気機器	プライム市場	1.9%
6	東京エレクトロン	電気機器	プライム市場	1.8%
7	日本たばこ産業	食料品	プライム市場	1.6%
8	小松製作所	機械	プライム市場	1.6%
9	富士通	電気機器	プライム市場	1.6%
10	オリックス	その他金融業	プライム市場	1.5%

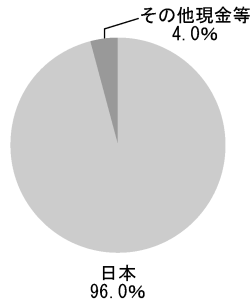
○業種別配分



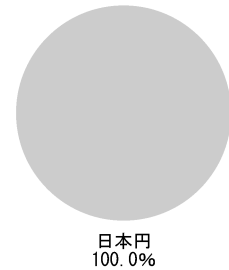
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 組入上位10銘柄、業種別配分、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは組入れファンドの直近の決算日時点のもの  
です。

(注2) 上記の比率は全て組入れファンドの純資産総額に対する割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。